

12 緑茶用新品種「せいめい」の滋賀県におけるかぶせ茶適性

【要約】「せいめい」は、一番茶 1.5 葉期から 15 日間の直がけ被覆栽培によって葉色、成分含有率、荒茶品質が向上し、被覆栽培における収量は「やぶきた」、「さえみどり」より多く、荒茶品質は「さえみどり」と同等で「やぶきた」より優れ、かぶせ茶適性が高い。

農業技術振興センター・茶業指導所

【実施期間】 平成 26 年度～平成 30 年度

【部会】 農産

【分野】 戦略的な生産振興

【予算区分】 国庫

【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

近年、茶の需要が多様化していることから、生産者、加工業者、茶商業者などの実需者ニーズを反映させた品種育成の研究が行われ、てん茶、粉末茶など様々な需要に適した品種として「せいめい」が平成 28 年に品種登録出願された。

本県では、荒茶価格の低迷や生産コストの高騰の中、茶生産農家の経営安定化のため、直がけ被覆栽培による高品質なかぶせ茶生産が求められていることから、被覆栽培で葉色が優れるとされる緑茶用新品種「せいめい」の本県におけるかぶせ茶適性を評価する。

【成果の内容・特徴】

- ①「せいめい」は、農研機構果樹茶業研究部門（枕崎）において「ふうしゅん」を種子親、「さえみどり」を花粉親として交配・選抜された品種で、樹姿がやや直立型、生育がやや旺盛で、収量は「やぶきた」より多く、本県での摘採期は「やぶきた」とほぼ同時期中生となる（データ省略）。
- ②「せいめい」は、一番茶 1.5 葉期から 15 日間の直がけ被覆栽培（遮光率 85%の黒色被覆資材）を行うと、露地栽培に比べて摘採日が 2 日程度遅れ出開きが進むが、SPAD 値が高まり、新芽の葉色が向上する（図 1、表 1）。
- ③「せいめい」は、直がけ被覆栽培によって一番茶のカテキン類（渋み）含有率の低下と遊離アミノ酸（旨み）含有率の上昇が顕著にみられ、荒茶品質の評価も外観、内質ともに高まる（表 1）。
- ④直がけ被覆栽培における「せいめい」の生葉収量は、一番茶、二番茶（2.5 葉期から 7 日間）ともに、「やぶきた」、「さえみどり」より多く、直がけ被覆栽培での収量性に優れる（図 2）。
- ⑤直がけ被覆栽培による「せいめい」の一番茶のかぶせ茶は、「やぶきた」より総じて品質で優れ、滋味でやや劣るものの「さえみどり」並に荒茶品質に優れる（図 3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①新植、改植時の品種選定の基礎資料として活用できる。
- ②本県の気象条件では、春先の低温によって摘採期が「やぶきた」より遅れる場合がある。
- ③二番茶 2.5 葉期から 7 日間の直がけ被覆栽培（遮光率 85%の黒色被覆資材）では、成分的な向上はみられるが、荒茶品質の評価はそれほど高まらない。
- ④本成果は、生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業 26099C『実需者の求める、色・香味・機能性成分に優れた茶品種とその栽培・加工技術の開発』」で得られたものである。

[具体的データ]



図1 「せいめい」の一番茶における直がけ被覆栽培の様子
(左：被覆開始時 1.5葉期、中央：黒色資材による直がけ、右：被覆15日後)

表1 「せいめい」の直がけ被覆栽培による一番茶収量品質特性（平成27～30年の4か年平均）

品種 (系統名)	栽培 ¹⁾ 方法	生育・収量特性				成分含有率（乾物重%） ³⁾			荒茶品質（官能審査） ⁴⁾					
		摘採日	生葉 収量 (kg/10a)	出開 き度 (%)	SPAD 値 ²⁾	全窒素	遊離 アミノ酸	カテキン類	外観		内質			合計 (50点)
									形状 (10点)	色沢 (10点)	香気 (10点)	水色 (10点)	滋味 (10点)	
‘せいめい’ (枕崎32号)	被覆	5/12	362	73	54	5.6	4.9	9.2	9.5	10.0	9.5	10.0	9.3	48.3
	露地	5/10	376	41	46	4.7	3.7	12.0	8.3	9.0	8.8	9.3	8.8	44.0

- 1) 被覆栽培は、1.5葉期から15日間、85%遮光黒色資材を用い直がけ被覆で行った。
 2) SPAD値は葉緑素計SPAD-502(コニカミノルタ社製)で摘採芽の上位3葉目を計測した。
 3) 全窒素はケルダール法、遊離アミノ酸とカテキン類は比色定量法による。
 4) 審査員5～6名による合議制の相対評価（各項目10点満点）

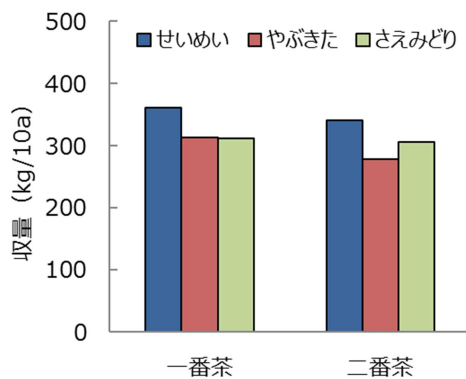


図2 直がけ被覆栽培における生葉収量
 一番茶：15日間被覆・4か年平均（平成27～30年）
 二番茶：7日間被覆・3か年平均（平成28～30年）

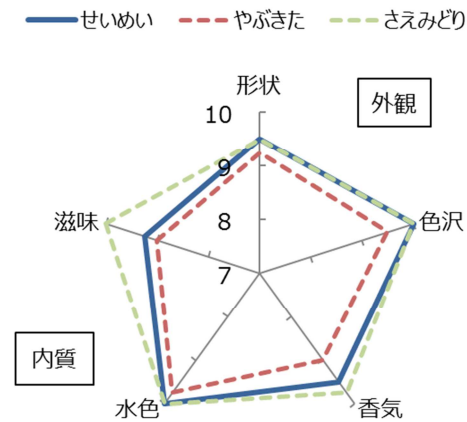


図3 直がけ被覆栽培によるかぶせ茶の荒茶品質（一番茶）
 4か年平均（平成27～30年）

[その他]

・研究課題名

大課題名：戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究

中課題名：野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興

小課題名：競争的資金活用型試験研究事業（実需者の求める、色・香味・機能性成分に優れた茶品種とその栽培・加工技術の開発）

・研究担当者名：近藤知義（H26～H30）、忠谷浩司（H27～H30）、松本敏幸（H30）、今村嘉博（H27）、和田義彦（H28～H29）

・その他特記事項：平成29年度茶研究会（2018/2/9）、イノベーション創出強化研究推進事業研究成果伝達会（2018/11/19）で発表